

# 学習状況調査分析支援プログラム結果を活用した小学校社会の取組【春日部市教育委員会】

学習指導 要領の内 容		設問別・観点別正答率									
		問題番 号	通番	評価の観点				記述 式	県 正答率	本校 正答率	
				1	2	3	4				
(1)	ア	1	(1)	1				○		82.5	81.2
(6)	ア		(2)	2				○		73.3	79.7
(1)	ア		(3)	3		○	○			79.7	79.7
(1)	ア		(4)	4		○	○			73.6	81.2
(6)	ア	2	(1)	5				○		51.7	44.2
(6)	ア		(2)	6			○			60.4	60.1
(6)	イ		(3)	7		○	○			87.4	87.7
(6)	イ	3	(4)	8				○		64.8	71.7
(2)	ア		(1)	9		○				63.3	68.1
(2)	ア	4	(2)	10			○			95.2	97.1
(2)	ア		(3)	11	○	○				81.5	87.7
(3)	ア		(1)	12		○	○			73.9	83.3
(3)	ア		(2)	13	○	○			☆	78.7	84.8
(3)	ア	5	(3)	14		○	○			59.7	68.8
(4)	ア		(1)	15				○		83.9	86.2
(4)	ア		(2)	16		○				59.7	52.9
(4)	ア	6	(3)	17			○	○		88.8	93.5
(5)	ア		(1)	18				○		88.8	94.9
(5)	ア		(2)	19				○		74.3	77.5
(5)	ア		(3)	20	○	○				88.0	89.9
○内容別正答率の分布状況一覧											
○観点別正答率の分布状況一覧											

県の正答率より下回った原因は、子ども達にとって「荒川」が身近でないことが考えられる。生活圏内にある江戸川の方がより親しみやすいのではないか。

4年生では、見学に行っていないため、県の正答率より下回ってしまったと考えられる。消火栓などの点検について、詳しく知らない子が多いので、実際に見せるなどして、実感できるような取組が必要である。

## 1-(2) 【できあがった地図】

(縮尺)を入れる問題で、79.7%と正答率がよかったのは、他教科との関連した学習が生かされていたのではないか。○○小は、英語の時間に『道案内』という単元で地図を使った学習を進めているので、よい結果として表れたものとする。

授業中の地図の利用を積極的に行っているのも大きいのではないか。

## 2-(4) 【埼玉県の周りの都県】

社会科の時間に、「県名かるた」を作成して、児童に都道府県について興味・関心を持たせた。自然に県名などを覚えることができるよう社会科の時間以外でも、かるたゲームなどを行った。

県名テストを、地方別に少しずつやっていき、47都道府県に広げていった。県名テストについては、繰り返し何回も行った。

### 3-(1, 2, 3) [スーパーマーケットの見学]

学区内に商店街があり、様々なお店の様子を理解しやすい。授業中の発言内容も、自分の生活に即して活発な意見が出される。子ども達の生活と密着している点大きい。また、すぐ近くに大型デパートやスーパーマーケットがあるので、生活経験があり正しく解答できている。

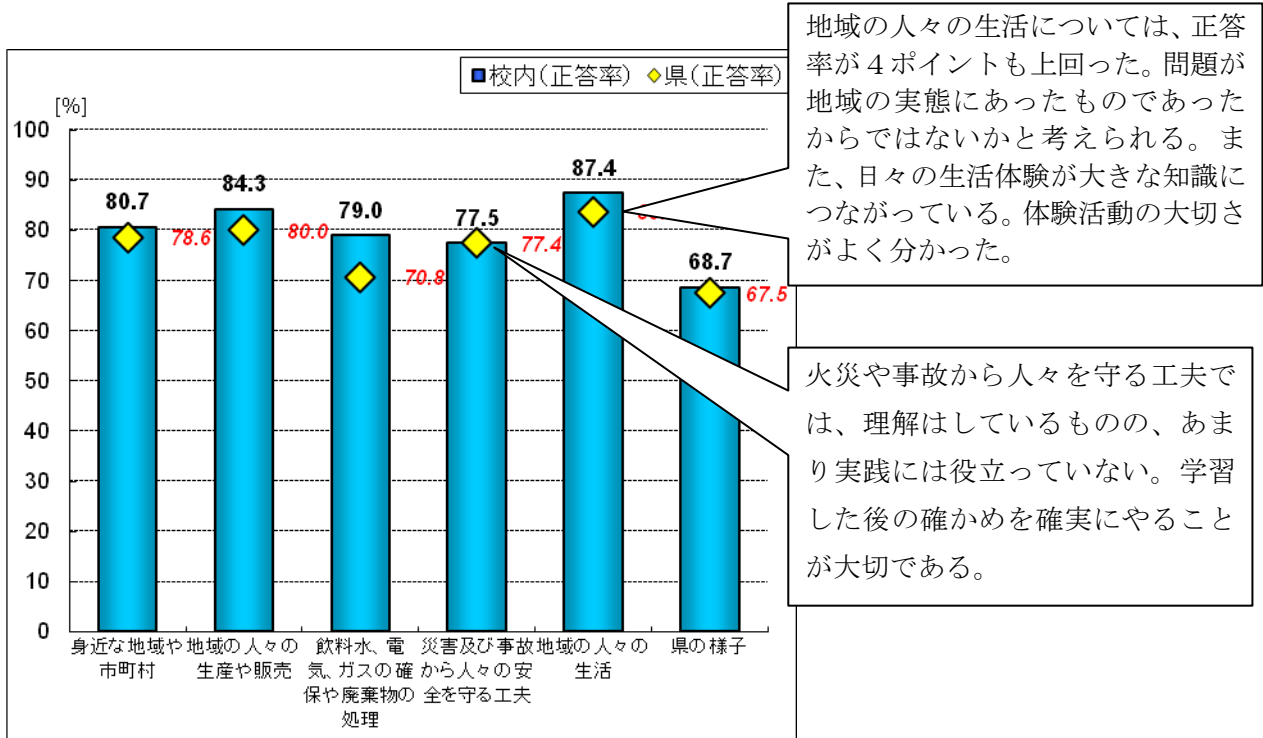
### 4-(1, 2, 3) [電気新聞]

他教科でも学習のまとめのところで新聞作りをさせているので、新聞に対して抵抗感がなくスムーズに見ることができる。社会科だけでなく、国語の「表やグラフ」にまとめるということが活かされている。「節電」については、家でも学校でもやっているの、よく理解できたのではないかと考える。

#### [全体的によかった理由]

教科書だけでなく、子ども達の日や耳を通して、見学できる環境に恵まれている。多くの体験をさせ、実際に見たり聞いたりすることで、理解していく部分が多い。また、社会科だけでなく、他教科との関連も大きい。国語や英語活動などとおして、自然と身に付いているものも少なくない。小テストの実施も有効的である。1度では覚えられないものも、少しずつ繰り返し復習することで、大きな力になっていくのではないかと考える。

社会科の授業では、課題に対しての予想を必ず書かせ、自ら調べる時間を取っている。毎日の課題に対して、興味・関心を持たせて取り組むことで、より身近な問題になっているのではないかと考える。資料等を用意して行う授業を心がけて、子ども達の活発な取組ができるようにしている。



〇〇小は、近くに郷土資料館もあり、昔の道具(昭和時代のもの)などの展示物は、すぐに手にすることや目にすることができるので、子ども達の理解も深まる。授業の中に郷土資料館の見学を計画的に位置づけており、その効果があらわれていると考えられる。